

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	研究マインドを持った臨床薬剤師養成のための教育プログラムの実践とアウトカムの評価				
研究組織	代 表 者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤 邦彦
	研究協力者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	辻 大樹
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	井上 和幸
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	杉山 恭平
	発 表 者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤 邦彦

講演題目
ファーマコゲノミクス研究に基づく臨床薬剤師養成プログラムの実践とアウトカムの評価
研究の目的、成果及び今後の展望
目的：当研究室では、ファーマコゲノミクス(PG)研究を通して、所属学生に実践的な薬物療法を学ばせるとともに、臨床の現場で起こっている問題を見つけ自己解決する能力の醸成に取り組んでいる。具体的には、病院・薬局長期実務実習を通して生じた様々な疑問を具体的な研究テーマに落とし込み、独創的な臨床研究として展開できる能力を身につけた人材の育成を目指している。本年度も当研究室に配属された学生を対象として開発したプログラムを実践し、ルーブリック評価表に基づき、達成度の評価を行うことにより、プログラムのさらなる改良につなげることを目的とする。 成果：PG 臨床研究を円滑に進めるために、1) 研究背景についての文献調査、2) 研究計画の立案、3) 倫理委員会提出書類の作成、4) 医師、薬剤師を対象としたスタートアップミーティングでのプレゼンテーション、5) 患者からのインフォームド・コンセント取得、6) 検体・患者情報の収集、7) 遺伝子・体内動態解析、8) 統計解析までの一連の流れをわかりやすく解説したマニュアルを作成した。当研究室の PG 臨床研究は、① 精神・神経疾患と薬物療法、② がん化学療法剤の副作用軽減であるが、本年度は、①のテーマで3人、②のテーマで3人の学生が、担当教員の指導のもとで臨床研究に取り組み、3年間の研究成果を、学会年会や卒論発表会で発表した。 今後の展望：我々が開発し改良してきた臨床薬剤師養成のための教育プログラムを実践することにより、医療現場で様々な問題点を発見し、それに基づき、臨床研究を立案、実施できる能力を有する研究薬剤師の育成が可能になるものと考えられる。本プログラムによりトレーニングされた学生を、様々な分野で活躍できる研究薬剤師として、継続的に医療現場に輩出することにより、本学独自の6年制教育プログラムとして、ウェブなどを用いて広く社会に対してアピールしていく。